

Fig. 2 野生株およびBAS 導入シロイヌナズナの形質変化
 左：播種後 14 日目（0.5%ショ糖含有 MS 培地）
 右：播種後 19 日目（6%ショ糖培地にしてから 5 日目）
 WT：野生株シロイヌナズナ
 BAS：BAS 導入シロイヌナズナ

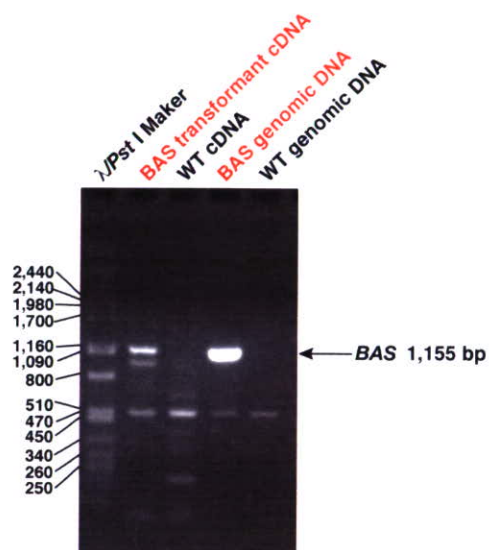


Fig. 3 PCR による BAS 遺伝子の増幅
 WT：野生株シロイヌナズナ
 BAS：BAS 導入シロイヌナズナ

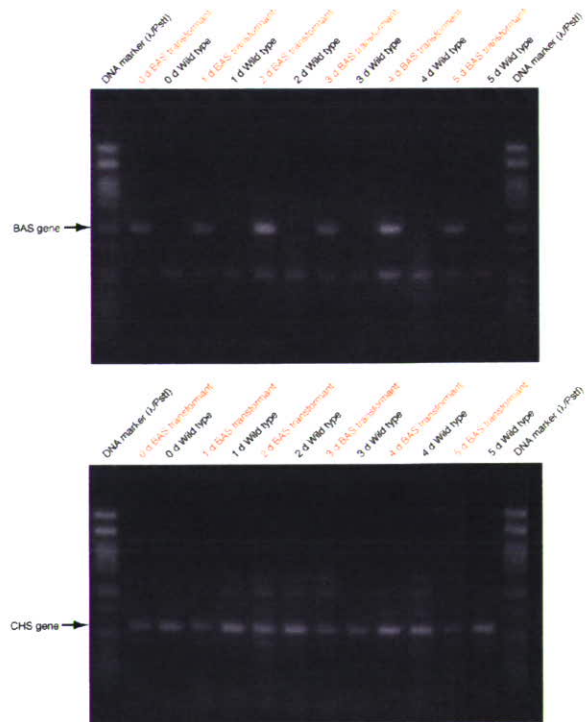


Fig. 4 高シヨ糖ストレス下におけるBASおよびCHS遺伝子の発現プロファイル
 赤文字：BAS 導入株 黒文字：野生株
 0 d や 1 d は、6%シヨ糖含有培地への移植後の日数を示す。

厚生労働科学研究費補助金(創薬基盤推進研究事業)

分担研究報告書

薬用植物資源の活用に関する中国情勢の調査

International Traditional Chinese Medicine Conference for Cooperation
in Science and Technology に関する報告

分担研究者 鳥居塚 和生 昭和大学薬学部・教授

要旨：諸外国の薬用植物資源の利用に関する情勢を調査し把握しておくことが、資源確保の上でも重要なことと考えられる。『中医药国際科技合作大会』平成19年11月28, 29日(北京)における、中国および周辺諸国の情勢について調査を行った。この会議は、約40ヶ国及びWHO, WIPOからの出席、外国の政府高官の出席があり全体で500名程度の規模であった。会議内容は、①伝統医薬の品質管理技術の向上が国際的な進出にとって必要②西欧で受け入れられるために現代科学技術による効果の解明が必要であり国際的な協力が必要。③生物多様性の保護、伝統中医学の知的財産の保護が重要というメッセージであった。このような諸外国の情勢の情報収集を行うことは薬用植物資源の確保の上でも大切といえる。また資源確保においてより強い発言権を得るためにも、日本の漢方医学の取り組みなどを世界により発信すべき時期に来ていると思われた。

A. 研究目的

中華人民共和国において昨今、中医学に対して、①国が音頭を取って中医学を再評価し積極的な活用を図る ②中医学の規範化を進める ③海外での認知度を高める ④各少数民族の伝統医学の発掘・保存・活用を推進する、といった4つの動向が顕著になっている。

2007年1月には「全国中医薬工作会議」が開催され、呉儀副首相が自らこれに出席、3項目(①中医薬の科学的 content と学術性の継承と刷新 ②人材の育成と医薬品の開発に向けた産業・大学・研究機関の協力 ③知的財産権の強化)を指示し、「中医药国際科学技術協力計画綱要(2006-2020)」の具体化などを提唱した。

このような中医学に関する活動は生薬の供給と需要のバランスにも影響を及ぼす可能性が考えられる。諸外国の薬用植物資源の利用に関する情勢を調査し把握しておくことは、資源確保の上でも重要なことと考えられ、中国情勢の調査を行った。

B. 研究方法

「中医药国際科学技術協力計画綱要(2006-2020)」の路線上で開催されたと思われる『中医药国際科技合作大会: International Traditional Chinese Medicine Conference for Cooperation in Science and Technology』に参加し、情勢を調査した。

C. 研究結果

『中医薬国際科技合作大会』の概要と趣旨:

1. 日時・開催地:

平成19年11月28日から29日. 北京市・北京新世紀日航飯店

2. 主催者:

中華人民共和国科学技術部, 中華人民共和国衛生部, 中華人民共和国国家中医薬管理局, 中華人民共和国国家食品薬品監督管理局, 中華人民共和国国家知識産権局, WHO

3. 趣旨

西洋医学との融合(統合医療)など伝統中医学の医療における役割を認識し, 科学技術協力や有効でかつ品質の安定した製品の開発により, 伝統中医学製品や医療の科学的な根拠の解明を行いたい. (原文意識)

4. プログラム:

大臣級フォーラム, 中国関係省代表, 各国次官級以上の代表による代表演説, 中医薬の施策・規制及び国際協力, 中医薬製品(原材料, 最終製品, 生産技術及び規格基準), TCMプロダクトの科学的検討, 技術品質の確保, 中医薬の臨床試験及び臨床応用(診断及び鍼灸等を含む)

5. 会議の目的

- 1) 中医薬国際科技合作北京宣言の採択
- 2) 専門家委員会準備委員会および委員の選出

6. 出席者

鳥居塚和生(昭和大学薬学部 教授)

小松かつ子(富山大学和漢研 教授)

地野 充時(千葉大学医学部 助教)

新木 一弘(研究開発振興課長)

佐藤 大作(研究開発振興課長補佐)

7. 会議概要

(1)約40ヶ国及びWHO, WIPOからの出席, 外国の政府高官の出席は(表1)のとおり.

中国側は, 副首相のスピーチを始め, 各関係省庁の高官が出席した. ただし, 当初ロシア, ドイツからの政府高官の出席が予定されていたが, 欠席であった.

(2)中国政府関係者の発表は, 次の点に関するメッセージが共通していた.

- ①伝統医療の品質管理技術の向上が, 国際的な進出にとって必要
- ②西欧で受け入れられるためにも, 現代科学技術による効果の解明等の近代化が必要であり, 近代化には, 国際的な協力が必要.

③生物多様性の保護, 伝統中医学の知的財産の保護の重要性の認識.

(3)大会の最後に, 伝統中医薬の医療やヘルスケアにおける役割と近代化のための国際的な技術協力を推進したいとする趣旨の「北京宣言」が中国側から出された.

(4)「国際協力専門家委員会の準備委員会」を発足することとし, 72人のメンバーが中国側から発表された. 中国人が32名であり, その他米国, 英国, ドイツ等からのメンバーが中国側により選任. 日本は, フランス国立科学院東京支所(CNRS)の Natachat Abelineという人物が選任されていた. (聞き取りによる)

(5)今後, 準備委員会を開催し, 専門家からなる正式な専門家委員会を発足する予定ということであった. (時期は未定)

2. 会議における各国の対応, 発表内容等

(1) プレナリー等の発表

- ① 中医薬の国際的な普及のための協力に外国参加者は必ずしも賛同しておらず、アラブ首長国連邦、マレーシア等は中医学以外の伝統医学の発表を行っている。(TCMをあえて、Traditional & Complementary Medicineと発言している)
- ② フランス、英国・豪州は、中国との医学協力の枠組みの中で中医学・中医薬を対象とした共同研究を行っており、中国寄りの発表であった。

(2) パネルディスカッション

北京宣言案、パネルメンバーの案が、規制、品質、臨床評価の3つのパネルでそれぞれ事前に発表されたが、欧米参加者から中医学批判や、事前に宣言案やメンバーの選出についての案も示されず、拙速であること、メンバーの選出も不透明との会議運営に対する不満が続出したが、すべて黙殺された。

パネル I 鳥居塚が通訳の胡さんと出席。

テーマ：「Laws and Regulations and Intellectual Property of TCM」

- a) 北京宣言についての検討をはじめに行った。

北京宣言のスライドを見ながら項目ごとに検討することから開始した。開始前には座長(Mr. Zhou GuolinとイタリアのDr. Ranieri Guerra)の打ち合わせができておらず、15分過ぎから始まった。また北京宣言についてどのようなものは、知らない参加者も多くクレームがついた。Webでダウンロードできたという、座長の回答に対しても、不備であるとの意見が多かった。

Dr. Unshuld (ベルリン医科大学教授)からは、記載事項に恣意的部分が多く、歴史の事実とは異なるとの厳しい指摘もあった。

- b) 準備委員会(7月4日)の議事録確認と

意見が求められたが、内容もメンバーもわからずスライドが出されるものの、印刷物での資料がなく、参加者からクレームが出てもただ流れるままであった。

(後になって、中医薬国際科技合作計画という科学技術部発刊の小冊子が受付テーブルに置かれていた)

- c) 座長から、10時45分に終了するとの宣言が出され、数々の意見があれば、書いたものを提出するように求められた。

「日本は、WHO、WHO/WPROの枠組みで対応しており、このような宣言や委員会を独自に作成するのはその枠組みと離れ、Duplicateになるのでは」という意見書を、佐藤大作氏に確認のうえ鳥居塚名で提出した。

パネル II 小松先生、佐藤氏、通訳の朋江さん(第一製薬)が出席した。

テーマ：「TCM Product」

- a) 座長は、北京大学中医薬現代研究中心のGuo教授。はじめに、準備委員会に関する趣旨説明があり、その後、口頭で、準備委員会のメンバーを紹介。カナダ、イタリア等から、伝統医学の協力に貢献しているのに、メンバーとしてカナダ、イタリアから選出がないこと等に対して批判的意見がでる。
- b) 日本についても、Natachat Abelineというフランス国立科学院東京事務所長が選出され、日本代表団からその人物に対して説明を求め、後日別の人物を追加・差し替え可能かを問うた。すべての人選に関する質問については、決定者に伝えるがその意向によるという回答がGuo氏からは帰ってきた。
- c) その後、前日に発表できなかった参加者の意見を聞くという展開となり、小松教授から、富山大学の研究と日本の伝統医学に関するプレゼンを行うが、日本の伝統医学と中医学の違いのスライド以降、発言を制された。

d) 北京宣言について、パワーポイントでの案文の発表があったが、もともとドラフトを入手する参加者は少ない様子。しかしながら、目立った反対意見はなかった。一方、日本代表団からは、宣言に書かれた「計画」や国際パネルなどこれまで議論されていない事項が決定されたかのように登場していることに不快感を示し、混乱するので、この会議でないところで決定されたよう注釈を付けるなどの対応を行うように要望したが、聞き入れられなかった。

パネルⅢ 地野先生が出席。後半から佐藤氏がサポート

テーマ：「TCM Clinical Research and Application (including TCM Diagnosis and Acupuncture)」

a) 鍼灸も含むTCMの臨床および研究に関するもので、参加者は40人から50人。座長は、Prof. Lu AipingとUKのProf. Kenneth Muir。

b) 北京宣言の前に3名のプレゼンテーションが行なわれた。すべてアメリカ関係の方のプレゼンテーションであった。最初はアメリカで鍼灸をしている中国人の話で、残り2人はNIHとNCIに所属しているアメリカ人の話であった。一般的な鍼灸の臨床の話やアメリカにおけるTCMを用いた研究の話で特に目新しい印象は受けなかった。

c) その後、パネルの最後に北京宣言が読み上げられた。ドイツの方からは「そもそもTCMの定義がはっきりしない」などの厳しい意見も出されていた。日本として意見を求められることはなかった。

(3) 学術的な発表について

① 中国は、生薬の臨床評価による効果等のプレゼン、システムバイオロジーと称して、フィンガープリンティング、メタボロミクス・プロテオミクス等の解析技術による基礎研究をさまざまな中国内

の学者に発表させているが、臨床評価についてはレベルが低く、また、プロテオミクス等の基礎研究についても、日本の研究者が既に実施している研究成果のコピーも多く見られた。

② 実際には行っておらず、観念論や想定上でこのようなことにあるのではという発表も多かった。文字が多く、結果は小さく、早く次のスライドになるというように、内容はほとんど見えなかった。

③ 日本からの発表については、もともと時間や演者が割り当てられておらず、富山大学の小松教授がパネルⅡの中で10分の日本の伝統薬研究のプレゼンを行ったのみである(現地での対応)。ただし座長によって、中断させられる。

(4) その他の参加者

日本からの参加者には次のような方がいた。(11月になって誘われたとのこと)

次郎丸敬司(日誠マリン工業株式会社代表取締役社長)

大畑 廣次(日誠マリン工業株式会社学術部部長)

荒井 哲也(小林製薬研究開発部主任)

袁 世華(杏林中医薬情報研究所所長)

韓国からの参加者

崔 善美(Choi Sun-Mi)(韓医学研究院医療研究部長ほか5名が参加)

D. 考察

(1) 中国政府の中医学・中医薬の振興(国内を含む)に関し、宣伝に利用するプロパガンダともとれる会議であった。また中医薬そのもの、あるいは成分や製品を新規なコンセプトの医薬品として認めさせたいという印象もあった。

(2) 中医学・中医薬については、これまで、知日派の学者達がさまざまな協力関係の中で学術的にもいい関係を中国とは保ってきた歴史がある。しかし今回の会議では、そのような知日派を意図的に排除している印象があった。欧州(特にフラ

ンス、イギリス、イタリアとは接近している)や米国指向の国際協力を目指している空気を感じた。

(3)欧米の出席者からの宣言等に対する批判も受け入れられず、中国以外の参加者にも不満が残っている様子。

(4)WHO(伝統医療課長 Zhang 氏 中国人)も今回の会議には決して賛同的ではなく、大会宣言の内容(WHOの活動と重複)、進め方等について疑問を投げかけていた。

(5)北京宣言については、中医学・中医薬に関する中国政府の宣言であり、表だって反対はしないが、積極的に協力する義務はないとの姿勢が良いのではないかと思われた。

(6)全体的に中国政府が力を入れているのが海外における認知度を高めることにあるとの印象であった。アメリカではすでに42州が中医の合法化と医療保険の適用を認め、FDA(アメリカ食品薬品管理局)は2007年に中医薬学を独立した科学体系として認定しするなど海外への働きかけが功を奏してきている。また中医薬の英訳化は独自に勧めており、5700語に達し、更に10,000語を目指しているという。また他言語への翻訳も進めているという。国家中医薬管理局は海外での中医薬に対する信頼度を高めるために、2007年から非強制性の『中医薬類専門技術者出国者資格認定管理規則(試行)』を実施しているという情報がある(三瀧正道氏:2007/12/3<中医学界の動向-その1>
<http://chinavi.jp/koramu304.html>,
2007/12/10<中医学界の動向-その2>
<http://chinavi.jp/koramu305.html>)。

このほかにも、第一回中医薬国際貢献賞(2007年4月)やロンドンの大学に世界初の中医孔子学院を開設予定(2008年9月)など様々な政策を実施している。

E. 結論

諸外国の薬用植物資源の利用に関する

情勢を調査し把握しておくことが、資源確保の上でも重要なことと考えられるため、「中医薬国際科技合作大会」における、中国および周辺諸国の情勢について調査を行った。

中国は国策の一つとして中医学、中医薬に関して、報告したような活動をしてきており、また今後もし続けられる。このような地道な努力は数年～十数年を経た後に、成果を挙げていくと推測され、中医学が国際的な標準になる可能性も否定できない。

今後もこのような動きについては、中医学と距離を置きつつ、中国の国際専門家委員会準備委員会の様子についてもモニターしながら、情勢を把握し適宜対応を考える必要がある。知日派に対しては友好的な関係を維持するように努めながら(大学等の研究者間の交流は促進)、情報収集を行うことは大切といえる。また日本の製薬産業の知財等については十分に注意する必要があると思われた。

漢方医学は、中国系医学を起源としているが、わが国独自に発展してきた医学でもあり、それに基づいた漢方エキス製剤や市販後調査、EBM集積など、伝統医学の科学的評価や品質管理などを現代科学的に高いレベルで検討を重ねてきている。このような点を、日本から世界により発信すべき時期に来ているといえるし、発信することで資源確保において、より高い発言権が得られるものと思われる。

F. 研究発表

1. 論文発表
(特になし)
2. 学会発表
(特になし)

G. 知的財産権の出願・登録状況
(特になし)

表1

委員会メンバー

China	32	
Hong Kong	4	
USA	11	
UK	5	
Germany	2	企業関係(ビジネスマン)
Netherlands	1	
France	4	
Italy	3	
Australia	1	
Spain	1	
Finland	1	
Greece	1	
Sweden	1	
Austria	1	
Luxembourg	1	
Korea	1	
Japan	1	ナターシャ・アベリン(Natachat Abeline, CNRS関係者)
Hungary	1	
	72	

注:リストなどの配布やスライド提示がないため、聞きとりでの人数の把握による

プログラム

発表順				Title (Shorty)		コメント	
Nov 28, 2007							
Opening Ceremony							
Mr. Shang Yong (Chair)	Vice Minister		MCST		Opening Remarks	尚勇	科技部
Ms. Wu Yi	Vice Premier					吳儀(呉儀)	国务院
Mr. Wen Gang	Minister		MCST			万钢	
Mr. Dimitris Avramopoulos	Minister		Health and Social Solidarity	Greece			
Mr. Chen Zhu	Minister		MOH			陈竺	卫生部
Mr. Shao Mingli	Commissioner		SFDA			邵明立	国家食品药品监督管理局
Mr. Wang Guoqiang	Commissioner		SATCM			王国强	国家中医药管理局
Ministerial Forum							
Mr. Shang Yong (Chair)	Vice Minister		MCST			尚勇	
Mr. Hon. Datuk Seri Chua Soi Lek	Minister		Ministry of Health	Malaysia			
Mr. P.Y. Lam	Director		Ministry of Health	Hong Kong		林秉恩	香港特别行政区卫生署
Mr. Serafino Zucchelli	Vice Minister		Ministry of Health	Italy			
Mr. Robert Schloger	Vice Minister		Ministry of Health	Austria			
Mr. Cheand Seng IP	Sub-director		Health Bureau	Macao		郑成业	澳门特别行政区卫生局
Mr. Ali Ahmed Bin Shakar ALZaabi	Undersecretary		Ministry of Health	Arab Emirates			
Mr. Pehin Dato Hajj Hazair Abdullah	Deputy Minister		Ministry of Health	Brunei Darussalam			
Mr. Francois Guinot	President		National Academy of Technology	France			
Mr. Tivadar Lippenyi	Vice President		National Office for Research and Technology (NKT)	Hungary			
Mr. Roman Szumski	Vice President		National Research Council (NRC)	Canada			
Mr. Hul Yongzheng (former)	Vice Minister		MCST		Platform	惠永正	
Mr. Lu Qlutian	China Ambassador in Germany (former)				Bonn Project	卢秋田	
Lunch							
Plenary Session							
Dr. Yan Xiaoliang (Chair)				Hong Kong		严孝强	
Dr. Jan Van Der Greef (Chair)				Netherlands			
Mr. Ma Yanhe	Director general	Dept Social Development	MOST		modernization, internationalization	马燕	
Dr. Zhang Xiaorui			WHO/HQ	WHO/Geneva	Challenges and Direction	张晓瑞	
Dr. Rudolf Bauer		Univ Graz		Austria	Perspective		EU: European Nutrition and Health Claim Reg. 2006
Dr. Pei Gang	President	Tongji Univ.				裴刚	同济大学
Dr. Alan Bensoussam		Univ Western Sydney		Australia	National Institute, National Collaborative Centre		
Dr. Luo Guo'an and Dr. Ja Wei		Tsinghua Univ and Shanghai Jiaotong Univ			Integration, Biology and TCM	罗国安, 贾伟	清华大学, 上海交通大学
Dr. Kenneth Muir		Univ Nottingham		UK	EBM and effectiveness		
Dr. Zhang Boli			China Academy of Chinese Medical Sci		Basic theoretical Res and TCM formula	张伯礼	天津中医药大学
Dr. Jeremy K Nicholson		Imperial College		UK			
Dr. Guo De'an		Shanghai Inst Materia Medica	Chinese Academy of Sci		Modern research, quality control, and safety evaluation	果德安	中科院上海药物所中药现代化研究中心
Mr. Rao Zihe	President	Nankai Univ			Research	饶子和	南开大学
coffee							
Dr. Xiao Peigan (Chair)						肖培根	
Dr. David Yue-Wei Lee (Chair)				USA			
Dr. Liang Xinmiao		Dalian Inst of Chemical Physics	Chinese Academy of Sci		Herbalome Project	梁鑫淼	中科院大连化学物理研究所
Dr. Jan Van Der Greef		SU BioMedicine/TNO System Biology		Netherlands	Paradigm shift		
Dr. Cheng Shujun		Cancer Inst & Hospital	Chinese Academy of Medical Sci		Tea polyphenol	程书钧	中国医学科学院肿瘤医院
Dr. David Yue-Wei Lee		School of Medicine, Harvard Univ		USA	Challenges & Opportunities		
Dr. Henry Sun	Vice President	Tasly group, China			TCM Industry	孙鹤	天津天士力集团
Dr. Liu Liang		Hong Kong Baptist Univ		Hong Kong	New therapeutic strategy	刘良	香港浸会大学
Dr. Walburg Maric-Oehler		German Medical Acupuncture Association/DAEGFA		Germany	Current situation		
Dr. Chen Shilin		Inst of Medical Plant Development	Chinese Academy of Medical Sci		Sustainable utilization & Resources	陈士林	中国医学科学院药用植物研究所
Welcome Dinner, hosted by Mr. Shang Yong (MCST)							

Nov. 29, 2007				Title (Shorty)			
Panel Discussion							
Panel I	<p>Laws and Regulations and Intellectual Property of TCM</p> <p>Mr. Zhou Guolin (Chair)</p> <p>Dr. Ranieri Guerra (Chair, Italy)</p>					周国林	
		1 Charter	Preparatory Committee of Expert Committee (Draft)				スライド出されるも資料がない。準備委員会(7月4日)メンバーは誰であったかも未確認
		2 Intellectual Property					
		3 Beijing Declaration					北京宣言に対するコメントをスライドを見ながら検討。ただしフローから急にそんな宣言といわれてもというクレームが多い。また記載事項が恣意的部分が多く、歴史の事実とは異なるなどの指摘もある。
Panel II	<p>TCM Products</p> <p>Dr. Guo De'an (Chair)</p> <p>Dr. Rudolf Bauer (Chair, Austria)</p>					黒田安	
		1 Cooperation mechanism					
		2 Charter	Preparatory Committee of Expert Committee (Draft)				
		3 Beijing Declaration					
Panel III	<p>TCM in Clinical Research and Application (Including TCM Diagnosis & Acupuncture)</p> <p>Dr. Lu Ai-ping (Chair)</p> <p>Dr. Kenneth Muir (Chair, UK)</p>					呂愛平	
		1 Cooperation mechanism					
		2 Charter	Preparatory Committee of Expert Committee (Draft)				
		3 Beijing Declaration					
Lunch							
Plenary Session							
Dr. Henry Sun (Chair)						孙鹤	
Dr. Jeremy K. Nicholson (Chair)				UK			
Dr. Zhang Qingkui			SIPO		Intellectual property	张清奎	国家知识产权局中医药发明审查部
Dr. Elder William	Univ Kentucky			USA	Development & Problems, Complementary & Alternative Medicine in USA		
Dr. Yan Xiaojiang	Hutchison Medipharma Limited, Shanghai				HMPL-004, TCM product	严孝强	和记黄埔医药(上海)有限公司
Dr. Liu Baoyan		China Academy of Chinese Medicine			Research of acupuncture in China	刘保延	中国中医科学院
Mr. Hans Georg Bartels			WIPO		WIPO's activity		
Dr. Wei Jian'an	Research Group of SANHUANG capsules				Clinical research of SANHUANG cap on AIDS	危剑安	复方三黄胶囊研究课题组
Dr. Alexander P. Shokou		Ministry of Health		Belarus	TCM in Belarus		
Dr. Wu Yiling	HeBei Yiling Pharmaceutical Group Corp.				Luo Diseases	吴以岭	河北以岭医药集团
Dr. Fritz Wallner	Univ Vienna			Austria	Sino-Austrian Cooperation		
Ms. Liu Yanhui	Beijing East Linden Sci. & Tech. Co., Ltd				Information Platform	刘延淮	北京东方辰科技术有限公司
Dr. Paul Huang	Massachusetts General Hospital East			USA	Cardiovascular diseases		
Dr. William JIA	Shanghai Innovative Res. Center				S111, anti-depression effect	贾书国	上海中药创新研究中心
coffee							
Dr. Zhang Qi (Chair)						张奇	
Dr. Jack Killen (Chair)				USA			
Dr. Liu Shuying	Chuangchun Inst of Applied Chem	Chinese Academy of Sci.			Chemical components	刘淑莹	中国科学院长春应用化学研究所
Dr. Ning Wang	Public Research Center of Health in Luxembourg			Luxembourg	FP7		
Dr. Lorenzo Cohen	Anderson Cancer Center, Houston			USA	International Center of TCM for Cancer		
Ms. Catherine Brochignas		French National Center for Scientific Research (CNRS)		France	Application of TCM in France		
Mr. Yang Zhaqing	General Secretary	The Organizing Committee of the Second World Health Conference			Health and TCM	杨慈清	第二届世界健康大会组委会
Summary of Panel I							
Summary of Panel II							
Summary of Panel III							
Closing Ceremony							
Mr. Li Daning (Chair)	Vice Commissioner		SATCM		Declaring the member list of the Expert Committee	李大宁	国家中医药管理局
Mr. Jin Xiaoming	Director General	Dept International Cooperation		MOST		靳晓明	科技部国际合作司
Mr. Hui Lusheng	Vice Commissioner			SFDA	Beijing Declaration	惠鲁生	国家食品药品监督管理局
Mr. Serafino Zucchelli	Vice Minister			Italy	Ministry of Health		
Mr. Shang Yong	Vice Minister			MOST	Closing Remarks	尚勇	
Mr. Li Daning	Vice Commissioner			SATCM	Declaring conference closing	李大宁	
1st Preparatory Committee Meeting	(invited only)						

発表者(所属項)		政府關係			
		大学·研究所·公的機関			
		企業·産業			

Ms. Wu Yi	Vice Premier(副总理)				吴仪(吴儀)	国务院
Mr. Wan Gang	Minister		MOST	Ministry of Science and Technology	万钢	科学技术部
Mr. Shang Yong (Chair)	Vice Minister		MOST		尚勇	科学技术部
Mr. Jin Xiaoming	Director General	Dept International Cooperation	MOST		靳晓明	科学技术部(国际合作司)
Mr. Ma Yanhe	Director general	Dept Social Development	MOST		马燕	
Mr. Hui Yongzheng	Vice Minister (former)		MOST		惠永正	
Mr. Chen Zhu	Minister		MOH	Ministry of Health	陈竺	卫生部
Mr. Wang Guoqiang	Commissioner		SATCM	State Administration of Traditional Chinese Medicine	王国强	国家中医药管理局
Mr. Li Daning (Chair)	Vice Commissioner		SATCM		李大宁	国家中医药管理局
Dr. Zhang Qi (Chair)	Director General	Dept International Cooperation	SATCM		张奇	国家中医药管理局
Mr. Shao Mingli	Commissioner		SFDA	State Food and Drug Administration	邵明立	国家食品药品监督管理局
Mr. Hui Lusheng	Vice Commissioner		SFDA		惠鲁生	国家食品药品监督管理局
Dr. Zhang Qingkui			SIPO	State Intellectual Property Office	张清奎	国家知识产权局
Mr. Lu Qiutian	China Ambassador in Germany (former)				卢秋田	
Mr. Yang Zheqing	General Secretary	The Organizing Committee of the Second World Health Conference			杨喆清	第二届世界健康大会组委会
Dr. Liu Baoyan				China Academy of Chinese Medicine	刘保延	中国中医科学院
Dr. Zhang Boli				China Academy of Chinese Medical Sci	张伯礼	天津中医药大学
Dr. Chen Shilin		Inst of Medical Plant Development		Chinese Academy of Medical Sci	陈士林	中国医学科学院药用植物研究所
Dr. Cheng Shujun		Cancer Inst & Hospital		Chinese Academy of Medical Sci	程书钧	中国医学科学院肿瘤医院
Dr. Guo De'an		Shanghai Inst Materia Medica		Chinese Academy of Sci	果德安	中国科学院上海药物所中药现代化研究中心
Dr. Liang Xinmiao		Dalian Inst of Chemical Physics		Chinese Academy of Sci	梁鑫淼	中国科学院大连化学物理研究所
Dr. Liu Shuying		Chuangchun Inst of Applied Chem		Chinese Academy of Sci	刘淑莹	中国科学院长春应用化学研究所
Dr. Jia Wei		Shanghai Jiaotong Univ			贾伟	上海交通大学
Dr. Luo Guo'an		Tsinghua Univ			罗国安	清华大学
Dr. Pei Gang	President	Tongji Univ			裴刚	同济大学
Dr. Xiao Peigen (Chair)					肖培根	
Mr. Rao Zilhe	President	Nankai Univ			饶子和	南开大学
Dr. Lu Ai-ping (Chair)					吕爱平	
Mr. Zhou Guolin (Chair)					周国林	
Dr. Wei Jian'an		Research Group of SANHUANG capsules			危剑安	复方三黄胶囊研究课题组
Dr. William JIA		Shanghai Innovertive Res.Center			贾韦国	上海中药创新研究中心
Dr. Wu YiLing		HeBei Yiling Pharmaceutical Group Corp			吴以岭	河北以岭医药集团
Dr. Yan Xiaoqiang		Hutchison Medipharma Limited, Shanghai		Hong Kong	严孝强	和记黄埔医药(上海)有限公司
Ms. Liu Yanhuai		Beijing East Linden Sci & Tech Co. Ltd			刘延淮	北京东方灵盾科技有限公司
Dr. Henry Sun	Vice President	Tasly group, China			孙鹤	天津天士力集团
Mr. P.Y. Lam	Director			Ministry of Health Hong Kong	林秉恩	香港特别行政区卫生署
Dr. Liu Liang		Hong Kong Baptist Univ		Hong Kong	刘良	香港浸会大学
Mr. Cheand Seng IP	Sub-director			Health Beraeu Macao	郑成业	澳门特别行政区卫生局

Dr. Zhang Xiaorui			WHO/HQ	WHO/Geneva	张晓瑞	
Mr. Hans Georg Bartels			WIPO			
Mr. Ali Ahmed Bin Shakar ALZaabi	Undersecretary		Ministry of Health	Arab Emirates		
Dr. Alan Bensoussam		Univ. Western Sydney		Australia		
Mr. Robert Schlogger	Vice Minister		Ministry of Health	Austria		
Dr. Fritz Wallner		Univ Vienna		Austria		
Dr. Rudolf Bauer		Univ Graz		Austria		
Dr. Alexander P Sivakov			Ministry of Health	Belarus		
Mr. Pehin Dato Haji Hazair Abdullah	Deputy Minister		Ministry of Health	Brunei Darussalam		
Mr. Roman Szumski	Vice President		National Research Council (NRC)	Canada		
Ms. Catherine Brechignae			French National Center for Scientific Research (CNRS)	France		
Mr. Francois Guinot	President		National Academy of Technology	France		
Dr. Walburg Maric-Oehler		German Medical Acupuncture Association/DAEGfA		Germany		
Mr. Dimitris Avramopoulos	Minister		Health and Social Solidarity	Greece		
Mr. Tivadar Lippenyi	Vice President		National Office for Research and Technology (NKTH)	Hungary		
Mr. Serafino Zucchelli	Vice Minister		Ministry of Health	Italy		
Dr. Ranieri Guerra (Chair, Italy)				Italy		
Dr. Ning Wang			Public Research Center of Health in Luxembourg	Luxembourg		
Mr. Hon. Datuk Seri Chua Soi Lek	Minister		Ministry of Health	Malaysia		
Dr. Jan Van Der Greef		SU BioMedicine/TNO System Biology		Netherlands		
Dr. Jeremy K Nicholson		Imperial College		UK		
Dr. Kenneth Muir		Univ Nottingham		UK		
Dr. David Yue-Wei Lee		School of Medicine, Harvard Univ		USA		
Dr. Elder William		Univ Kentucky		USA		
Dr. Jack Killen (Chair)				USA		
Dr. Lorenzo Cohen		Anderson Cancer Center, Houston		USA		
Dr. Paul Huang		Massachusetts General Hospital East		USA		

参考（略名）

略名		
MOST	Ministry of Science and Technology	科学技术部
MOH	Ministry of Health	卫生部
SATCM	State Administration of Traditional Chinese Medicine	国家中医药管理局
SFDA	State Food and Drug Administration	国家食品药品监督管理局
SIPO	State Intellectual Property Office	国家知识产权局
CISTC	China International Science and Technology Cooperation	科学技术部 国际合作司
	China Academy of Chinese Medicine	中国中医科学院
	China Academy of Chinese Medical Sci	中医药大学
	Chinese Academy of Medical Sci	中国医学科学院
	Chinese Academy of Sci	中国科学院
WHO	World Health Organization (WHO/HQ)	
WHO/WPRO	World Health Organization/Western Pacific Regional Office	
WIPO	World Intellectual Property Organization	
WPRIM	Western Pacific Region Index Medicus	
NRC	National Research Council	France
CNRS	French National Center for Scientific Research	France
NKTH	NKTH	Hungary

III. 研究成果の刊行に関する一覧表

書籍・論文による成果の発表なし